

# 平成25年度 第1回 道南ブロック審判研修会 報告書

函館地区審判長 五島 義人

○日時 平成25年5月18～19日

○場所 北斗市総合体育館・函館市立駒場小学校

○参加人数 講師4名 研修生21名

○経過と内容、成果など

時刻	プログラム	おもな内容
5月18日 9:00	開講式	<p>・ ブロック長挨拶 講師の紹介など</p> <p>講師 北海道バスケットボール協会 指導育成部長 阿部 聖 氏 同 道審判委員長 北本 健二氏 道南ブロック長 櫻井 孝 氏 室蘭地区 宇都宮浩史氏 講師補助 五島義人（函館） 久保大輔（苫小牧）</p>
9:15	座学	<p>・ 研修会テーマ「正確な判定技術へのアプローチ」について 今回は動画を見て判定の基準を確認し、実技の分解練習を行い、その後ゲームを吹くという流れで行うことの説明。動画を見て、それをいかに実践に活かせるか、自分自身、そして講師や仲間からのアドバイスを受けることで正確な判定に結びつけてほしい。</p> <p>・ 講師の阿部聖氏からの座学で、動画を用いて行った。内容は、①トラベリング、②手を使ったファウル、③ゲームマネジメントの3つだった。その中で、取るべきものを取らないと、あとで大きなことになりかねない、という話があった。実際の動画でも、トラベリングを逃したことで、その後ファウルになったケースも紹介された。ルールブックと照らし合わせて、ゲーム中にいかにその現象を捉えることができるかを考えて、ゲームに活かせる内容だった。</p>
10:15	分解練習	<p>オールコートでの2人の協力の練習を行った。オールコートプレスできたときに、2人の距離が離れずに、しっかりとボクシングインをする練習だったが、フラッシュに合わせることで、ロングパスへの対応とゲームでもよくあるケースを練習することができた。さらにハーフコートの5対5も2人の協力が必要だということで、ディフェンスのラインを意識した位置取りを考えながら練習することができた。</p>
11:00	ルールテスト	<p>・ 全部で25問の○×形式のルールテスト。長い文章もあり、細かいルールまで把握、理解していない審判員にとっては厳しい点数になっていた。</p>

11:40	実践①	講師：阿部氏、北本氏、櫻井氏、宇都宮氏 中学生の函館カップというゲームを使い、8試合を行った。講師と主任からのアドバイスをもらい反省し、そして次に生かすことができる内容であった。また、ほとんどのチームがオールコートのゾーンプレスを行っており、先ほどの分解練習が早速生かされていた。
17:30	終了	1日目の総括を講師からいただいた。
5月19日 9:00	実践②	・講師：阿部氏、北本氏、櫻井氏、宇都宮氏 ※函館地区の一般春季大会の準決勝と函館カップを使用  ゲームは2会場に分かれて、12試合、延べ24人の審判員に割当てがあった。前と同じように、主任と講師からアドバイスもらった。また講師で上級でもある宇都宮氏にも割当て、若手の見本となった。また今回は高校生も参加していたが、経験のために主任にも入ってもらった。
15:30		終了
15:30	閉講式	総括。 2会場に分かれていたので、別々に閉講式を行った。

#### ○成果と課題

今回は何といってもAA級の阿部聖氏が講師で来て下さったのが大きかった。AA級の話はいくつもの修羅場をくぐってきた経験からか、とても説得力があった。AA級を取得されてからも、更に努力を続け海外派遣にも行っている方であり、全道大会においても最終日に割当てられるなど、北海道の審判員の中でも経験豊富で見本となる姿勢を十分に感じ取ることができた。初日の座学や分解練習でも、的確なアドバイスやポイントを絞った指導は大変わかりやすく、受講生にも大変好評だった。参加者全員が意識して、これからの審判活動に役立てられるアドバイスであった。また今回は委員長として、また審査委員会の立場として北本氏に来ていただいた。今までの経験から、また現場を多く見てきた立場からのアドバイスが的確で大変参考になった。

参加した審判員については、講習内容やアドバイスが新鮮に感じられ、意欲の向上にもつながっていた。中には勢いのある大学生レフリー、女子高校生も参加していたが、意欲的で常に上を目指そうとする姿勢は、公認審判員も刺激を受けたと思われる。今回は中学生の大会を使用したのが、北海道のトップレベルの学校と東北からも招待したチームがあり、レベルの高いゲームを吹くことができた。そのことを考えても大変有意義な研修会であった事が認められるところである。そうした前向きな姿勢が、それぞれの立場で今後どのように生かされるか、今後どのように消化吸收していくか、それぞれの審判員の活動が試される場所である。各審判員におかれては今回の研修会で培った積極的な雰囲気や意欲を忘れることなく、学んだ成果を十分に発揮してもらいたいと願う次第である。